

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりを大切にし、生徒が生き生きとする学校づくりをめざす！

- 1 文部科学省が提唱するこれからの社会を生き抜くための『21世紀型能力』を身につけさせる。
- 2 地域に根差した魅力ある学校づくりを進める。
- 3 「安全安心な学校づくり」を中心に据えに生徒一人ひとりを大切に、「面倒見の良い」学校づくりをめざす。
- 4 「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づき、普通科総合選択制から総合学科への改編に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 『21世紀型能力』を育成するための授業改革に取り組む。

- ア 生徒の主体性を育てコミュニケーション能力を身につけさせるために、アクティブラーニング型の学習形態を増やす。グループワーク形式や課題解決型、参加体験型、双方向型の授業形態を積極的に取り入れ、言語活動の充実を図る。
- イ 新たな大学入学者選抜に対応できる学力育成に組織的に取り組む。

(2) キャリア教育の充実を図る。

- ア H23年度から取り組んできた「実践的キャリア教育」、およびH26年度からの「キャリア教育支援体制整備事業」の取組み・成果を継承し入学から卒業までを通して、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、社会の中で自立し、学び続けようとする生徒を育成する。
- イ 社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を発見し、社会に貢献することを喜びと感ずることができる生徒を育成する。

2 地域に根差した魅力ある学校づくり

(1) 大阪市西部のベイエリアに立地する学校という特色を生かし、地域の企業、施設などの外部と連携し、職場体験・実習などの活動を充実させる。

- ア 地域の企業、施設あるいは区役所と連携しインターンシップや職場体験を充実させる。

(2) 広報活動を充実させ、「魅力的な学校」、「入って良かった学校」としての認知度を高める。

- ア 中学校訪問、説明会を積極的に展開し大正高校の認知度を高めるとともにその教育内容の理解を広める。

(3) 部活動の活性化を図り、地域に貢献できる部活動づくりを進める。

- ア 部活動の参加率を上げるとともに、活動を地域にアピールでできるような取組みを進める。

(4) 生徒、保護者、地域の多様なニーズに応え、進路指導の充実を図り、就職内定率、進学決定率の向上を図る。

- ア 校内外の環境の変化に対応した進路指導の充実を図り、就職内定率100%・進学決定率100%、進路未定率12%以下を目標とする。

(5) 授業内容充実のため学校外の人材や資産（施設・設備・機関）の活用を図る。

3 安全安心な魅力的な学校づくり

(1) 生徒理解の促進と教育相談体制を充実し、中退防止に努め、中学生や地域への広報活動の充実を図る。

- ア 教育相談委員会・学習支援委員会の活動や中退防止の取組みを充実させるとともに、委員会と学年との連携をいっそう図り、生徒情報の共有化を促進する。
- イ 中学校訪問・中高連絡会を継続し、生徒理解を深め、中途退学者の減少に努める。
- ウ クラス開きをきっかけにした人間関係構築プログラムの充実を図り、今まで以上に人間関係のトラブルの減少を図る。

(2) 防災教育の充実を図る。

- ア 大阪湾に近い本校の立地から、南海トラフの大地震を想定し、学校生活における安全確保にとどまらず、一般生活での自分の身の安全を守る方法や、周囲・地域の人への貢献を考える姿勢などを身につけさせる。

(3) 生徒の校内美化の意識を高めるため美化活動の充実に取り組む。

(4) 生徒が自らの健康と安全を考えるため、薬物乱用防止、喫煙防止に積極的に取り組む。

(5) 進化の著しい携帯情報端末機器（スマートフォン、タブレットなど）の正確な知識を習得し理解を進め、安全な使用法を身につけさせる。

(6) 生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう、事故防止を観点におき施設・設備の充実を図る。

4 「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づく総合学科への改編へ向けての取組み

(1) H25年度のCR(クイット)委員会の活動の成果を受け、H26年度からの改編準備プロジェクトチームの活動を継続し、改編の実現へ向けての具体的な施策構築に取り組む。

- ア 社会、地域のニーズを把握、文部科学省の提唱する『21世紀型能力』をもとに育成すべき生徒像を確立できたのでその具現化に着手する。
- イ 総合学科のコンセプト、系列、「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」、などの学校教育の中心となる部分の具体化を進める。
- ウ 総合学科としての校内組織の在り方についての検討を進め、組織改革に取り組む。
- エ 総合学科の理念に則した教務内規や生徒指導内規の検討を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】アクティブラーニング型授業を学校全体として取り組み、数値が向上した。「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会」68%→74%と大きく伸びた。一昨年(53%)と比較すると21%の上昇である。とりわけ3年生での数値(88%)は重点的に取り組んだ結果でもある。「授業のわかりやすさ」「評価」についても微増だが高い割合になっている(各77%、82%)。</p> <p>【生徒指導】「交通安全等を学ぶ」78%→81%は、7月の自転車安全講演や12月の事故防止講演の効果と考えられる。「防災を学ぶ機会」74%→79%も防災訓練・学習、避難路確認などの取り組みの結果と思われる。</p> <p>【進路指導】「生き方について考えるプログラムがある」74%→76%は、1・2年でマネープランの進路HR、1年大学生による「カタリバ」の取り組みの反映であろう。「進路についての情報の提供」82%→79%とやや減だが8割が肯定的。</p> <p>【生徒会指導】「一緒にいて楽しい友人がいる」84%と毎年高い数字を維持。「部活」については74%→71%とやや減。加入率の低下が原因か。</p> <p>【保護者向けアンケート】「こどもが授業が楽しくわかりやすい」58%→66%と生徒の反応とともに大きく上昇した。「生徒指導方針」「教員からの配慮」「健全育成」についてはどれも例年と変わらず8割程度の肯定的評価を得た。進路指導についての情報発信については保護者からの視点からは改善の余地がある(4~6%減)。メール配信は84%が便利と回答(+3%)。「学校の出来事を話す」70%→77%は、生徒の回答(59%→70%)と相関している。</p> <p>【教員向けアンケート】「評価について話し合う機会」59%→73%の他は総じて数値が下った。学校全体の教育活動は向上しているが、授業改善への意欲、AL型授業への工夫、学習支援の方法、生徒指導、家庭との連携についてもより改善したいとの意識の反映という見方もできる。</p>	<p>【第1回】6月13日(土)10:00~10:30 公開授業見学のあと協議(10:40~12:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画については理解・了承されぜひ実現に向けて努力してもらいたい。 ・授業見学では生徒たちは一生懸命に実習等に取り組んでいた。 ・アクティブラーニング型授業の推進は文部科学省で出された大きな流れであり、本校でもそれを進めているのはいいことである。 ・昨年度の遅刻数半減の実績を今年も継続を。 <p>【第2回】11月7日(土)9:40~10:30 公開授業見学のあと協議(10:40~12:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生政治・経済のアクティブラーニング型授業を見学し、思考判断を重視した授業になっている。生徒たちも自分の意見を表明していた。より質の高い実践を期待したい。 ・個々の生徒たちの状況を丁寧に把握し、家庭との密接な連携が行われている。学校全体が落ち着いており、今後もお願いしたい。 <p>【第3回】2月25日(木)15:00~16:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治的教養を育む教育で、政治的中立を保つことが前提である。教員は価値判断をせずに生徒に考える場と資料を与える役回りになる。 ・模擬投票についても生徒の出した結果を生徒自身に考えさせることが大切。 ・総合学科となるとどう変わるのか?(→選択科目の幅が広がる等) ・総合学科において総合的な学習の時間などの評価についても工夫が必要。 ・企業の採用においても点数だけでなく多面的に見ることを重視する。考課する側の教育も大切である。 ・アクティブラーニングの取り組みを通して、互いの授業見学で議論できるようになればなお好ましい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「生きる力」「21世紀型学力」を育成するための授業改革</p> <p>(2)キャリア教育の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業改革に結びつく企画(パッケージ研修Ⅱ)を利用し評価の改善を主体に授業改革の進展を図る。</p> <p>自己診断で「わかりやすい」「工夫」の数値アップを図る。</p> <p>イ 新しいタイプの大学入試を研究し、それに対応できる力を持った生徒の育成を図る。進学希望者の講習(放課後や長期休業中)の実施や選択授業の中で実践力育成の先進的な取組を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 進路カルテのさらなる活用を図る。</p> <p>イ 大正高校版「キャリアワーク集」をさらに生徒に適切なものになるよう改訂を進め、1年次から卒業までを通して、一層の活用を図る。</p> <p>ウ 校外学習や社会見学をキャリア教育の一環に取り入れる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断で「わかりやすい」75%→80% 「工夫している」76%→80% 「考え・発表する」68%→72%</p> <p>イ 補習の実施、授業改革の校内周知、授業改革の研修の実施</p> <p>(2)</p> <p>ア 記入状況を閲覧し把握する。</p> <p>イ 「キャリアワーク集」の活用状況を点検する。</p> <p>ウ 実施できたかどうかを確認する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月に「アクティブラーニング研究チーム」を設置しアクティブラーニング(AL)型の授業の推進に取り組んだ。AL型授業の根幹である「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」68%→74%に上昇(H25は53%で2年間で21ポイント上昇)した。 「わかりやすい」75%→77%に 「工夫している」76%→75%と反映されなかった(H25比としては+5を維持)(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月と11月に基礎力診断テストを実施。診断結果をHRで担任から分析結果と今後の学習方法についてフィードバックを行う。1・2年で夏・冬に進学講習を各8~10日間英国数で実施。1月には実力テストを2日間受講させ講習の成果確認に活用。(◎) ・11/27に校内研究授業を実施。AL型授業改革に向けて、全教員が授業の研究協議に参加。産業能率大学の小林昭文教授を招き、授業改善に向けての講演及び助言をいただいた。(◎) <p>(2)</p> <p>アイ「キャリア教育支援ワーク」をベースに本校編「進路の手引き」を改訂し活用しやすいものにした。また1年当初から「ドリパス・ファイル」を生徒に持たせ、進路HRでのプリント類を3年間活用できるよう指導。ポートフォリオとして生徒自身が活用できるよう、外部業者の学力生活実態調査の答案や成績票、テスト結果を保存し活用する指導を行った。(◎)</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/19の2年エリア別体験学習では校内プログラムに加え、地元企業4社を見学するコースを実施した。(◎)

<p>2 地域に根差した魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 職場体験・実習などの充実 (2) 広報活動の充実 (3) 地域に貢献できる部活動の活性化 (4) 進路指導の充実 (5) 授業への外部人材、資産の活用</p>	<p>(1) ア 地域の企業、施設、区役所などと連携しインターンシップや職場体験を充実させる。 (2) ア 中学校訪問、説明会を工夫する。よりわかりやすい内容に工夫し大正高校の認知度と理解度を高める。また説明会については参加者数の増加を図る。 イ 広報新聞「元気マンニュース」の発行とポスターの作成 ウ 公開授業を中学校教員等を対象に実施する。 (3) ア 体験入部、部活動紹介を活性化させ、部活動の参加率を向上させる。 イ 活動状況を連絡黒板、生徒会ニュース、元気マンニュース、学校ホームページなどを用いて積極的に応援する。 (4) 就職内定率、進学決定の上昇を図り進路未定率の減少を図る。 (5) 授業内容の充実のため積極的に外部人材や資産（施設・設備・機関）を活用する。</p>	<p>(1) ア 参加生徒数、参加状況を把握する。インターンシップ 12名→15名 職場見学は割合の増加を図る。 (2) ア 内容については毎回リハーサルを行い点検する。 参加者数 172人→200人（1～3回の合計数） イ 元気マンニュースの発行 3000部⇒3500部 ウ 11月の公開授業を中学校等へも呼びかけ見学者を増やす。 (3) ア 参加率 42%→46% イ 掲載状況を点検する。 (4) 就職内定率 100% 進路未定率 12%以下 進学決定率 100% (5) 回数と内容を把握する。</p>	<p>(1) ア ・インターンシップの参加人数がほぼ倍増、応募前職場見学は件数とも大きく増加。丁寧な指導を行った。 インターンシップ 12名→22名（8件→7件）(◎) 職場見学 98件→161件（1次幹旋、2次幹旋とも丁寧な事前指導を行った）(◎) (2) ア ・説明会の参加者数は約270名で倍増した。(◎)（計5回の合計数） ・内容については毎回リハーサルを実施し中学生にわかりやすい説明・運営を心がけ改善に努めた。(◎) イ ・元気マンニュースは、昨年の内容をベースにカラーダイジェスト版8ページを作成し、中学校訪問及び学校説明会で積極的に配布。印刷部数はダイジェスト版2100部を外部発注。1号～5号は校内で300部作成し学校説明会等で配布。量的には昨年を下回ったが、内容の充実および配布の効果的な活用で広報的には質は高まった。(◎) ウ ・公開授業は、中学校からの見学はなかったが、学校協議会委員の方々に見学していただき、ご意見をいただいた。(○) (3) ア ・部活動加入率は32%（昨年度42%）に減少した。男女比率の変化が要因と考えられるが、2学期にも見学週間を設け、再加入の取り組んだが結果にはつながらなかった。(△) イ ・HP更新回数 89回（昨年度56回）(◎) (4) ア ・就職状況については就職内定率 65/66（99%）で目標を達成まで後一步である。(○) ・進学決定率は48/48で100%となり目標値となった。(◎) ・進路未定者は28名（19%）で目標を下回ったが、内9名はハローワークに登録し求職中、アルバイトをしながら目標とする仕事をめざす（18名）など目的をもって活動中である。(△) (5) ・マネープランのHRを各学年で実施。 ・11/18に3年英語選択授業で、外国語専門学校でのグローバル体験プログラムに参加。英語で搭乗手続き・内入国審査等の疑似体験した。 ・3年国語選択授業で絵本製作。読み聞かせ指導では外部の指導者を招いた。近隣の保育所での絵本読みの実習を実施。 ・1月に1年で大学生30数名による進路プログラム「カタリバ」を総合HRで実施。(◎)</p>
-------------------------------	---	--	---	---

府立大正高等学校

3 安全安心な魅力的な学校づくり	<p>(1) 支援体制の充実</p> <p>(2) 防災教育の充実</p> <p>(3) 校内美化</p> <p>(4) 健康・安全教育</p> <p>(5) 携帯情報端末機器の扱い</p> <p>(6) 校内環境・設備の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学習支援委員会などを活用し支援の必要な生徒のサポートに努める。</p> <p>イ サポートアンケートを活用し、生徒実態の把握に努め支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ 中学校訪問、中高連絡会の充実を図り生徒状況を的確に把握する。</p> <p>エ 1年生においてクラス開きを中心にした人間関係構築プログラムの充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 3年間支援を受けた「実践的防災教育総合支援事業」の内容を継承し、発展的な内容に進化させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 美化月間を実施し校内美化の意識を高める。</p> <p>(4)</p> <p>ア 薬物乱用防止、喫煙防止について生徒指導 HR および保健 HR において取り組む。</p> <p>イ 心肺蘇生法について学ぶ機会を設ける。</p> <p>ウ 感染症対策を啓発し、予防に努める。</p> <p>エ 熱中症対策を啓蒙し発生防止に努めるとともに対処法を身につけさせる。</p> <p>(5)</p> <p>ア スマートフォンやタブレットについてその正しい扱い方法を知るとともに自分を守り、人を傷つけない方法を身につけさせる。</p> <p>(6)</p> <p>ア 事故防止のための環境整備に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 回数を把握し内容を検討する。</p> <p>イ カードの使用状況を点検する。</p> <p>ウ 件数を把握し、内容については点検する。</p> <p>エ 中退者 →20人以下 遅刻回数 5918→4500</p> <p>(2) 学校教育自己診断（防災について学ぶ機会 74%→78%</p> <p>(3)</p> <p>ア 校内美化活動の点検を行い、清掃状況の把握を行う（回数、参加人数）。</p> <p>(4) (5)</p> <p>講演や HR の実施状況を把握する。外部人材を活用する。</p> <p>(6) 学校教育自己診断（施設・設備の安全衛生面）62%→66%</p>	<p>(1)</p> <p>ア 今年度7回開催。(◎)</p> <p>イ サポートアンケートを元に入学時に中学校との連携、支援計画の作成、校内での要支援生徒を抽出し、学年会・教科会・職員会議で情報を全体共有する体制を確立。(◎)</p> <p>ウ 入学時50数校の中学校を訪問また電話にて生徒状況の把握を行った。7月の中高連絡会でも20中学が来校し情報交換を行った。2学期までに89校を訪問し在籍生徒の情報交換を行った(◎)</p> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退者29名となった。背景はそれぞれ異なるが、学習面での不安が理由として多かった。(△) ・遅刻回数 5559（昨年比-359）。昨年度は半減させたが、本年度は微減にとどまった（7%減：生徒数増の分で補正すると13%減）。毎日の放課後の遅刻者指導の内容をより厳しくしたが大幅減にはつながらなかった。(○) ・1年生4月当初のクラス開きを実施し、人間関係の構築を促した。(○) <p>(2)</p> <p>ア 「防災について学ぶ機会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・74%→79%に向上。防災 HR と避難訓練の内容に工夫し意識の向上を図った。(◎) <p>(3)</p> <p>ア 美化月間を実施。美化委員を中心に毎日清掃状況の確認。PTA の支援を受け、ゴミ箱をカラー化し分別の徹底を図った。(◎)</p> <p>(4)</p> <p>ア 1月に近隣の警察署より講師を招き1年対象の薬物 HR を実施。「薬物の脅威を学ぶ機会」78%→81%に向上(◎)</p> <p>(5) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年は5月に携帯電話について生指 HR、3では4月にスマホトラブルについての人権 HR を実施した。(◎) <p>(6)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に府教委支援の「スケアード・ストレート」(スタントマンによる自転車事故の防止実演)を実施。「交通安全を学ぶ機会」78%→81%に向上(◎) ・「施設・設備の安全衛生面」62%→64%(○)
4 総合学科への改編へ向けての取り組み	<p>(1) プロジェクトチームの積極的な活動</p>	<p>(1) 改編に向けてのプロジェクトチームの動きをさらに活性化させる。</p> <p>ア 育成すべき生徒像の具現化に取り組む。</p> <p>イ 根幹部分になるコンセプトづくり、系列、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の内容を具体化していく。</p> <p>ウ 総合学科としての校内組織を検討し、その改革に着手する。</p> <p>エ 総合学科の実情に則した教務内規、生徒指導内規について検討を進める。</p>	<p>(1) プロジェクトチームの進展状況を把握する。その都度経過を職員会議で報告する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に提案した開講予定科目の見直しと各講座の継続的な開講のための方法、シラバスの見直しを各教科で検討した。(△) ・今年度も改編対象校とはならなかった。